

## ■学校経営のポイント

### 「平成29年度の教育課程」を構想する

小島 宏

次年度の教育課程を構想する時期が来た。校長はリーダーシップを発揮し、学校評価を活用し、中教審答申の「カリキュラム・マネジメント」の趣旨も踏まえて編成作業に取り組みたい。

#### カリキュラム・マネジメントの理解

まず、中教審答申の「カリキュラム・マネジメント」の3側面を理解する研修の機会を設ける。そして、次年度の教育課程の編成や指導計画等の改善の際に、可能な限り反映させる方向で進めるよう担当者に指導・指示したい。

〈1:目標達成に必要な内容の組織的配列〉各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

〈2:教育課程のPDCAサイクルの確立〉教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。

〈3:地域の教育資源を活用した授業づくり〉教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

#### 学校評価の分析と活用

現行学習指導要領に基づく教育課程の編成が長期間続き、前年踏襲の消極的な傾向が見られる。そこで、教育課程のPDCAサイクルを意識し、今年度の学校評価(自己評価、学校関係者評価、第三者評価)の結果(よい点を一層よくする、課題を改善する、新しいことを取り入れる等)を活用し、積極的に改善するという発想で進める必要がある。

#### 子供に育む資質・能力の明確化

現行の教育課程や指導計画等では各教科等で育成する知識・技能を中心とする傾向がある。そこで、

次年度の教育課程や指導計画等の目標や内容については、新学習指導要領が求める資質・能力の3要素を可能な限り盛り込むよう指導・指示する。

その際、「各教科等で育む資質・能力」と「各教科等横断的に育む資質・能力」の両面を意識させる。これらが明確になると、今後の授業づくりが大きく変化してくるものと思われる。

○「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」

○「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」

○「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」

#### チーム学校としての取組

教育課程の編成や指導計画等の改善は、教務部(教務主任)が中心になって進めるも、教員の持ち味や校務分掌を勘案して、全員で分担し、協働して進めるようにする。チーム学校としての取組は、当事者意識と意欲の喚起とともに、中教審答申及び新学習指導要領について研修する絶好の機会となる。

#### 保護者や地域住民との協働

カリキュラム・マネジメントと社会に開かれた教育課程を関連的に進めると効果的と思われる。教育課程のPDCAサイクルに、保護者や地域住民にも参画・参加を得ることにより、理解が得られ、子どもの教育に協働して当たる関係が促進される。そのためには学校情報の適切な提供と、保護者や地域住民の意見や要望等を受け止めることも重要である。さらに、地域の人的・物的な教育資源を活用した教育活動の開発・実施についても積極的に進めたい。

(こじま・ひろし=元公立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●手帳の準備はお済みですか? 校長・教頭のための最強スケジュール帳!

## 2017 スクール・マネジメント・ノート

【監修】小島宏 【企画・製作】教育開発研究所 A5判・268頁/定価(本体2,200円)+税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

